

令和5年度

武蔵野市—関前南地域子ども館—関前南こどもクラブ

第三者評価結果報告書

武蔵野市こどもクラブ 第三者評価

I 評価概要

(1) 評価対象

評価施設 武蔵野市—関前南地域子ども館—関前南こどもクラブ

(2) 評価機関

株式会社 日本生活介護

(3) 評価日程

令和5年12月7日～令和6年3月28日

訪問調査日 令和6年2月7日

II 評価方法

(1) 評価結果の構成

・評価結果は、利用者の声を聞く「利用者調査」と事業者の自己評価をもとに評価者が分析した「事業評価」の結果で構成されます。
・利用者調査結果は、各評価項目の回答状況で表します。
・事業評価結果は、全体の評価講評(「特に良いと思う点」、「さらなる改善が望まれる点」)、事業者が特に力を入れている取り組み及び各評価項目についての評点及び講評で表します。

(2) 事業評価の表し方

事業評価は4つのカテゴリーに分けて評価する仕組みになっています。

【カテゴリーの構成】

I 育成支援の基本方針と組織

- 1 理念・基本方針
- 2 運営状況の把握
- 3 事業計画の策定
- 4 育成支援の質の向上への組織的・計画的な取り組み

II 組織の運営管理

- 1 管理者の責任とリーダーシップ
- 2 福祉人材の確保・育成
- 3 運営の透明性の確保
- 4 地域との交流、地域貢献

III 適切な育成支援の実施

- 1 利用者本位の育成支援
- 2 育成支援の質の確保

IV 育成支援

- 1 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
- 2 学童クラブにおける育成支援
- 3 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
- 4 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
- 5 適切なおやつを提供
- 6 安全と衛生の確保
- 7 保護者・学校との連携

●カテゴリーの評点

各評価項目はその評価項目に属する1～7個の標準項目(※)について、実施が確認できたものを「あり」、実施が確認できないものを「なし」で表し、それらを並べたものが評点です。
※標準項目は、武蔵野市が福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または実施するための仕組みがあることが必要であると認められる事項を基本とし、学童クラブとして必要とされる標準的な評価項目で構成しています。なお、標準項目を確認できたとすることができるのは、①事業者が当該事項を実施していること、②その実施が継続的(必要性を認識し、計画的)であること、③その根拠が示せることを充足した場合です。

●講評

評点だけでは、実際のサービスの具体的な状況や、それぞれの事業者が工夫している多様な取り組みを説明できないため、評点では表現しきれない事業者の実態や課題、サービスの現状等については、「講評」欄に記載されています。

Ⅰ. 組織マネジメント項目（カテゴリーⅠ～Ⅲ）

カテゴリーⅠ. 育成支援の基本方針と組織

サブカテゴリーⅠ-1

理念・基本方針

評価項目 Ⅰ-1- (1)			評点 (○)
理念・基本方針、基本方針が確立・周知されている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	理念、基本方針が明文化され、周知が図られている	

サブカテゴリーⅠ-2

運営状況の把握

評価項目 Ⅰ-2- (1)			評点 (○○)
経営環境の変化等に対応している			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	運営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている	

サブカテゴリーⅠ-3

事業計画の策定

評価項目 Ⅰ-3- (1)			評点 (○○)
中・長期的なビジョンと計画が明確にされている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	中・長期的なビジョンを踏まえた単年度の計画が策定されている	

評価項目 Ⅰ-3- (2)			評点 (○○)
事業計画が適切に策定されている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している	

サブカテゴリーⅠ-4

事業計画の策定

評価項目 Ⅰ-4- (1)			評点 (○○)
質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブの質の向上に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している	

カテゴリーⅠの講評

市の定める育成指針に準じた、地域子ども館の方針を定めている

市の定める育成指針は、目的、理念、運営、支援員等の役割、体制の整備の五つの視点から、各項目について詳細な育成支援の基本事項が決められている。職員へは、採用時に研修を行い、その際に指針を配布し周知をしている。加えて、各館の代表者とオブザーバーが参加する育成委員会や障害児委員会で年度始めに内容を再確認している。保護者へ向けては、年度始めの保護者会で、指針と年間計画の説明を行っている。この基本方針を基に地域子ども館の重要事項をまとめ、特に子どもの主体性を育む育成支援の実践を行っている。

市の子どもプランや協会の中期計画の更なる周知に向けて取り組む意向である

市の第五次子どもプラン武蔵野を基に協会で5年間の中期計画を作成し、年度毎の進捗状況の把握を事業報告の中で行っている。事業計画は基本方針と重点目標、前年度の報告からの課題を基に作成されており、計画の進捗状況は半期に一度見直しを行って確認をしている。さらに、武蔵野市第六期長期計画については、職員への情報共有の必要性を感じており、市や子どもの未来見据えて、共通認識を持って業務に取り組んでいきたいとしている。長期計画を職員に配布しているが、内容の熟知に向けて取り組む意向である。

子どもや保護者の様々なニーズに対応し、専門的な支援を提供している

毎年実施する保護者アンケートは、各学童クラブの育成支援や安全管理、体制やニーズに関する情報を収集しており、その結果は市のホームページで公表し、各学童クラブにもフィードバックしている。市では将来的な利用者数を予測し、待機児童が発生しないように、民間の学童クラブと連携して、受け入れ体制の検討を行っている。各学童クラブに市で委嘱している育成相談員や協会で契約しているアドバイザーが巡回し、障害を持つ子ども等への支援について職員と相談を行い、専門的な支援の実施に取り組んでいる。市と協会、学童クラブが連携して課題に対処し、安定した運営を目指し、各取り組みを行っている。

カテゴリー II. 組織の運営管理

サブカテゴリー II-1

管理者の責任とリーダーシップ

評価項目 II-1- (1)		管理者の責任が明確にされている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	児童青少年課・子ども協会・館長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている		
評価項目 II-1- (2)		館長のリーダーシップが発揮されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブの質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している		

サブカテゴリー II-2

福祉人材の確保・育成

評価項目 II-2- (1)		福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	総合的な人事管理が行われている		
評価項目 II-2- (2)		職員の就業状況に配慮がなされている		評点 (〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる		
評価項目 II-2- (3)		職員の質の向上に向けた体制が確立されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている		
評価項目 II-2- (4)		子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している		

サブカテゴリー II-3

管理者の責任とリーダーシップ

評価項目 II-3-(1)		運営の透明性を確保するための取組が行われている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている		

サブカテゴリー II-4

地域との交流、地域貢献

評価項目 II-4-(1)		地域との関係が適切に確保されている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		

評価項目 II-4-(2)		関係機関との連携が確保されている		評点 (〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている		

評価項目 II-4-(3)		地域の福祉向上のための取組を行っている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている		

カテゴリー II の講評

適切な人員配置に向けた積極的な採用と、長期的定着に向けた職員育成に努めている
入会者数を把握した上で、適切な人員配置とするため、年度毎に職員の採用を行っている。その際、専門学校などへアプローチを行い、積極的な採用活動を展開している。長期的な雇用を促進するために、内定後には施設見学や懇談会、採用後の面談などを実施し、早期退職の防止に取り組んでいる。また、キャリアパスの提示や年度ごとの自己評価に基づく面談を通じて、職員の意向や展望を把握し、育成とキャリアアップを支援している。加えて、研修計画を策定し、館内研修やブロック研修を実施することで、職員全体の専門性向上に努めている。また、大学の授業の一環としての教育体験活動の受け入れを行うほか、ボランティア希望の学生をアルバイトとして採用するなど、未来の人材育成に向けても取り組んでいる。
市民のニーズに寄り添い、適切なサービスの利用に向けて情報提供を行っている
館長、館職員、学校長、PTA、コミュニティーセンター代表、民生委員、青少年問題協議会、関前福祉の会、地域コーディネーター、むさしのエコフォーラム、施設開放委員会等から構成される地域子ども館推進会議では、学童クラブの役割と運営状況についての情報共有や話し合いが行われ、子どもが安全に暮らせる地域社会づくりに向けた取り組みが進められている。市全体としては、公立の学童クラブだけでなく民間の学童クラブについても情報提供を行い、市民のニーズに合ったサービスの提供を目指している。
各関係機関と連携して、子どもの安全な地域生活に向けて取り組んでいる
学校とは月1回のミーティングを通じて、子どもと家庭の状況について情報共有を行っている。また、担任とは学期毎に加えて随時情報共有を行う関係性を築いている。支援が必要な子どもについては子ども家庭支援センターと年度始めに状況確認を行うとともに、変化があった際の情報共有もしている。子育て支援ネットワーク会議では、虐待、ヤングケアラー、権利擁護に向けた今後の取り組みや研修で知識を深めている。さらに、開かれた学校づくり協議会では、学校状況を共有するとともに、学童クラブとしての視点から学校運営のための意見交換に参加している。

カテゴリーⅢ. 適切な育成支援の実施

サブカテゴリーⅢ-1

利用者本位の育成支援

評価項目 Ⅲ-1- (1) 子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている 評点 (〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもや保護者等を尊重した育成支援について共通の理解を持つための取組を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した育成支援が行われている
評価項目 Ⅲ-1- (2) 育成支援の提供に関する説明と同意 (自己決定) が適切に行われている 評点 (〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	利用希望者に対して学童クラブ選択に必要な情報を積極的に提供している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブの利用開始・変更にあたり、子どもや保護者等にわかりやすく説明している
評価項目 Ⅲ-1- (3) 子どもや保護者等の満足の向上に努めている 評点 (〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもや保護者等の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている
評価項目 Ⅲ-1- (4) 子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている 評点 (〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している
評価項目 Ⅲ-1- (5) 安心・安全な育成支援のための組織的な取組が行われている 評点 (〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	安心・安全な育成支援を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	事故・災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている

サブカテゴリⅢ-2

育成支援の質の確保

評価項目 Ⅲ-2-(1)		提供する育成支援の標準的な実施方法が確立している		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	育成支援について標準的な実施方法が文書化され、育成支援が提供されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している		
評価項目 Ⅲ-2-(2)		子どもに対する育成支援の計画が策定されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	育成支援の計画を適切に策定している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている		
評価項目 Ⅲ-2-(3)		育成支援実施の記録が適切に行われている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもに関する育成支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している		
カテゴリⅢの講評				
入会から卒会まで、ニーズに応じた利用となるよう、必要な情報を適宜提供している				
<p>保育園や幼稚園の卒園前には、学童クラブの入会案内を配布し、サービスの周知をしている。入会案内には、あそべえと学童クラブの違いや民間の学童クラブについての説明が記載されており、ニーズに応じた選択ができるようにしている。さらに、学校の入学前保護者説明会でも、地域子ども館の概要について説明し、サービス内容を理解してもらうよう取り組んでいる。年4回の保護者会では、家庭の状況変化に伴う利用変更の手続きについても説明し、適切な利用を促している。そして、3年生には卒会に向けて、今後のあそべえの利用や放課後の過ごし方についても説明をしている。</p>				
日頃からの安全管理を通じて、子どもが自主的に安全を確保する意識が根付いている				
<p>入会前におやつ提供のアレルギー対応についての事前説明を行い、入会時に聞き取りを行い、詳細を把握している。また、事故報告やヒヤリ・ハットにおいては、全地域子ども館の事例を提示し、注意喚起を行い、再発防止に努めている。年度始めには地域めぐりを行い、入会している子ども全員の登下校ルートの調査を行い、交通量や危険箇所を把握している。ホワイトイーグル担当エリアのパトロールを通じて、学校と不審者等の情報を共有している。学校と連携した感染対策を徹底し、職員が手洗い等の衛生管理を支援している。第三者評価の子ども対象の利用者アンケートでは、防災対策に対する意識の高さが示されており、定期的な訓練を通じて子どもの安全意識を高めていることが伺えた。</p>				
市内の地域子ども館全体の状況把握を行い、適切なサービス提供の見直しをしている				
<p>毎月の館長会議では各館での子どもの様子を情報共有し、具体的な対応について話し合い、自施設の育成支援に反映させている。また、各館の担当者を集い、育成委員会の活動を通じて、虐待防止や権利擁護、安全管理に関する統一した取り組みを決定している。障害児や支援が必要な子どもについては、障害児委員会で支援の方針を定め、アドバイザーや育成相談員の助言を受けて、支援計画の策定とその目標達成に向けて、適切な支援を行っている。さらに、育成日誌と個別支援シートに子どもの様子を記録し、育成支援の経過を把握し、より良い支援の実践に向けて取り組んでいる。</p>				

育成支援（カテゴリーⅣ）

サブカテゴリーⅣ-1

子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備

評価項目 Ⅳ-1- (1)		子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	室内のレイアウトや装飾等にも配慮し、子どもが心地よく過ごせるような生活環境づくりに取り組んでいる		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもが宿題や読書、自習等の学習活動を自主的に行える環境づくりに取り組んでいる		

カテゴリーⅣ-1の講評

<p>学童クラブ専用の建物であり、子どもたちが過ごしやすいよう、工夫された環境整備がなされている</p> <p>学童クラブ専用の部屋が学校敷地内に設置され、トイレや手洗い、おやつの保管や準備ができるスペース等が確保されている。ボードゲームやブロックなどの遊び道具、けん玉やコマなどの伝承遊びの道具が用意され、子どもたちは自由に遊ぶことができる。室内の装飾は過剰にならないよう工夫し、刺激が少ない環境が整えられ、その結果子どもたちは集中しやすく、ホワイトボードのスケジュールなどを無理なく把握することができる。スケジュールはどの部屋に行っても分かりやすいよう、基本的な書き方は統一されている。ロッカーの配置も身長や使いやすさを考慮し配置している。特にアレルギーなど配慮が必要な子どものロッカーは全支援単位で端に配置され、緊急時にはどの職員も対応できる体制が整っている。同じ小学校内にはあそべえ（放課後子ども教室）があり、子どもたちは遊びに行くことができる。静養室やクールダウンできるスペースも確保されており、必要な子どもたちがいつでも利用できるよう配慮されている。</p>
<p>宿題などの学習活動は卒所後の生活をイメージし、自分のスケジュールを自分で考えて取り組むよう支援している</p> <p>学童クラブでは、一日の大まかなスケジュールが用意されているが、子どもたちが自主的に自身のスケジュールを考えられるように支援している。例えば、宿題タイムが設けられているが、この時間に宿題をやるか、本を読むかは各自が決めている。宿題をやらない場合でも、他の時間を利用して宿題をすることができる。ホワイトボードには毎日その日一日のスケジュールが書かれているが、職員が一斉に時間などを伝えるのではなく、子ども自身が気づき、行動できるよう支援している。卒所後の生活をイメージし、放課後の時間を有効に使っていくことを目標に、自主的な行動が促されている。このように、子どもたちが自らの意思で行動し、時間を管理できる環境が整えられている。</p>

サブカテゴリーⅣ-2

学童クラブにおける育成支援

評価項目 Ⅳ-2- (1)		評点 (〇〇)
子どもが学童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブに通う必要性を子どもが理解できるよう保護者とともに援助し、放課後及び学校休業日の生活の場として、一人ひとりの子どもが尊重され、安心してのびのびと過ごせる場となるよう配慮している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	新入会の子どもについては、利用者の開始前に子どもや家庭の状況、保護者の希望を聴き取るとともに、学童クラブでの過ごし方について伝え、保護者と情報交換している

評価項目 Ⅳ-2- (2)		評点 (〇)
子どもの出欠席を把握し、適切に援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	出欠席、登所、退所等についての報告は保護者から直接受け、子どもの所在を把握している

カテゴリーⅣ-2の講評

<p>学童クラブに来る意味を分かりやすく、子ども・保護者に伝え、安心できる場となるよう、日々の声かけを大事にしている</p> <p>入会説明会の際、保護者に「学童クラブに通う必要性」について、子どもたちに話してもらおうと伝えている。子どもたちには、1年生歓迎会の際、「学童に来ているからおうちの人が安心してお仕事ができる」ということをわかりやすい言葉で話している。また、「学童に来たくない」という声が聞かれた時は、その理由や気持ちを丁寧に聞き取り、解決を図っている。日々の生活の中では、「困ったことがあったらいつでも職員に声をかけてよい」、「職員はいつでも話を聴く」ことを伝えている。特に1年生には「困っていることはないか」「学童は楽しいか」など適切なタイミングを図りながら個別にあるいは全体に聞き取りをし、安心して過ごせる場となるよう配慮している。</p>
<p>保護者の疑問や不安解消のため入会説明会を実施し、気になることは伝えてほしいとの声掛けにより、保護者との情報共有を行っている</p> <p>クラブでの基本的な生活やお願いが書かれている「入会のしおり」を配布し学童クラブでの過ごし方について、わかりやすく説明している。児童調査票など各種書類により、父母の緊急連絡先や子どもの状況などを把握している。特に、アレルギーや個別の配慮を必要とする家庭には面談を実施し情報共有に努めている。保護者には、気になること、質問など気軽に学童クラブに連絡してほしいことを伝え、保護者が相談しやすい環境を整えている。連絡帳やおたよりも活用し、学童クラブでの子どもたちの様子を共有するよう努めている。</p>
<p>保護者から直接連絡帳、電話などで連絡を受け、子どもの所在を確認している</p> <p>出欠等の連絡については、保護者から直接知らせてもらうことが必要な旨を入会説明会・保護者会などで伝えている。毎日の出欠席・早退などは連絡帳に記入をお願いしている。電話連絡を受けた場合は、電話ノートに記入し出席簿に反映させたり各職員に伝達するなど、一定の流れが定められており、ミスを防ぐ工夫がされている。子どもが登所しない場合は、保護者に確認し、子どもの所在確認を行っている。また、時間などに不明点がある場合や、子どもと保護者の間に相違点がある場合は保護者に連絡し、正しい情報をもとに降所などを行っている。</p>

サブカテゴリⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 Ⅳ-3- (1)		子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している	評点 (○)
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるよう、全体に共通にする生活時間の区切りをつくり、放課後等の時間を自己管理できるように支援している	

カテゴリⅣ-3- (1) の講評

職員は毎日のミーティングで共通の流れを確認し、ホワイトボードに掲示することにより、放課後の時間を自己管理できるよう支援している

登所後、子どもたちはホワイトボードで一日の流れを確認し、自分で今日の時間の使い方や遊び方を考えられるようにしている。曜日や授業時間数などを考慮して育成の流れや大枠のパターンを決めることにより、職員も子どもたちも育成の流れや生活リズムが整うようにしている。毎日のミーティングでは職員全員で育成の流れや内容を確認し、重要な連絡事項や予定は全支援単位で共有し、同じタイミングで子どもたちに伝えている。これらの内容をホワイトボードに掲示することで、子どもたちが見通しを持って過ごせるように支援している。また、一日育成の場合は、長い一日を見通しを持って生活できるように朝の会を設けている。

評価項目 Ⅳ-3- (2)		日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるように援助している	評点 (○○)
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	あいさつや自分のことは自分で行う等の基本的な生活習慣が身に付き、自立につながるよう支援する	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもが協力し合って学童クラブの生活を維持していくことができるよう、集団で過ごすという特性を踏まえて、一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるように支援している	

カテゴリⅣ-3- (2) の講評

挨拶などの生活習慣が身につくよう声掛け、見守りをするにより習慣化を図り、必要に応じて支援を行っている

職員は、子どもたちが登所後に自分のロッカーにランドセルをしまい、連絡帳を出し、手洗いをする、などの一連の基本習慣を身につけるよう支援している。新学年が始まる時期には、ランドセルをロッカーに入れる方法や連絡帳を提出することなどを伝えている。これらの習慣が定着してくると、子どもたちが主体的に行動できるよう見守り、必要に応じて声をかけたりサポートをしている。さらに、「ただいま」「ありがとうございます」などの基本的な挨拶についても、職員が積極的に行い、挨拶の気持ちよさを子どもたちに伝えることで、挨拶の習慣化を促すとともに、その際の声や表情によってその日の子どもの状態を読みとるようなバロメーターの一つとしている。

異年齢で過ごすことにより、上級生の姿から学童での協力や決まりごとを学んでいる

子どもたちが自主的に協力しあえる関係性を築くため、常に子どもの様子を把握し、適切なタイミングで職員が介入している。異年齢で構成された班のメンバーと一緒に座り、宿題をしたり、おやつを食べたりするなど、日常的に関わる機会を設けている。学年に応じた役割や当番を設定することで、上級生の行動を見て、下級生が協力の仕方や学童クラブでの決まりごとを学ぶことができている。職員は、子どもたち同士の関わりの中で、協力することや規則を守ることの大切さを伝えている。

評価項目 IV-3- (3)

子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 日常の子どもの心身の状況を把握し、健康管理を適切に行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 子どもの発達状況、家庭状況、学校での生活等を把握し、一人ひとりの心身の理解に取り組んでいる
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③ 制作活動や伝承遊び、地域の文化に触れる体験等の多様な活動や遊びを工夫している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④ 自由遊びにおいては、発達段階に応じた主体的な遊びにより、一人ひとりの力や意欲を引き出せるよう支援している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑤ 遊びや各種活動を通して、自主性、社会性、創造性、協調性が育つよう支援している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑥ あそべえや地域の公園等、学童クラブ以外の空間も活用し、子どもが快適に過ごす環境作りに努めている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑦ あそべえ、コミュニティセンター、児童館等の行事に参加するとともに、校庭や公園等を活用し、子どもの遊びの範囲が広がるよう支援している

カテゴリーIV-3- (3) の講評

保護者、学校、他機関との情報共有などいろいろな角度から子どもの状況を把握し、一人ひとりの理解に取り組んでいる

登所時や連絡帳を受け取る際など、子どもの表情や様子を観察し話を聞き、いつもと異なる場合は保護者と連絡を取り合っている。子どもの発達状況や家庭状況については、調査票や就学支援シート、保育園等からの情報、子ども家庭支援センターからの情報などを参考にしながら、日々の育成状況を把握している。また、学校とは定期的に打合わせを行い、次月の予定や子どもの状況を共有している。さらに、学期末に担任の先生と情報交換会を実施し、子どもの様子などを共有している。保護者、児童との個人面談も必要に応じて実施され、様々な角度から子どもたちを理解する仕組みがある。

日々の遊びから子どもたちが中心になり企画・運営をすることで活躍する喜びや達成感を得られるよう支援している

季節に応じた工作や行事を行っている。伝承遊びは職員全体で取り組み、けん玉やコマなどは検定表を用意し、子どもたちの意欲を引き出している。年度初めには職員も参加して遊びのルールを統一を図っているが、慣れてくると子どもたちで遊べるよう見守り、めんこなど興味を持った遊びには材料を用意し遊びの幅を広げている。さらに、子どもたちが企画運営する集団遊びでは、司会やルール説明などの役割を分担している。そうした日々の遊びの積み重ねから子どもたちが自ら大会を計画し実施することができるようになっている。その結果、自身の活躍や達成感を味わうことができている。

学童クラブ室に加え、あそべえとの連携により、子どもの遊ぶ環境や交流を広げる支援が行われている。

自由時間には、子どもたちが主体的に遊ぶ場所や遊びの内容を選択できるよう、あそべえ(教室・図書室・校庭)や他のクラスへの行き来、室内遊びなどの選択肢が用意されている。子どもたちが様々な場所で過ごすことで自然と交流が活発になるよう配慮されている。また、毎月のあそべえでの工作への参加を促したり、あそべえのイベント時には学童の子どもたちがスムーズに参加できるよう、事前に打ち合わせを行っている。長期休業中には、学校との相談を経て、午前中に校庭で遊ぶことができるようにしている。自分の所属する支援単位だけでなく、他の場所やイベントにも参加する機会が提供され、子どもたちの交流が広がり、遊びが多様化するよう工夫している。

評価項目 IV-3- (4)		子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している		評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	集団遊びにおいては、異年齢で、また、大勢で遊ぶ楽しさを共有でき、良い仲間関係が築けるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんか等については、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげること等ができるよう、関わりを通して相手を理解する姿勢と許容する気持ちや忍耐力を養うよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	異年齢集団での班活動や当番活動の中で、他の子どもへの積極的な関わりを促し、友達や年下の仲間を思いやる気持ちを育てるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④	子どもの間でいじめ等の問題が生じないように配慮するとともに、万一、そのような問題が起きた時には早期対応に努め、保護者や学校と連携して適切な対応を行っている		
カテゴリーIV-3- (4) の講評				
<p>集団遊びや班活動、当番活動を通じて、異年齢や大勢で遊ぶ楽しさを共有し、良好な仲間づくりをしている</p> <p>集団遊びの楽しさを体験できるように、日常から異年齢で構成される班の中で、関係性を育めるようにしている。上級生がリーダーシップを発揮し、帰りの会などで、下級生が楽しめるゲームなどを行う場を設けている。生活の切り替え場面では、大人主体ではなく上級生が率先して行い、下級生に伝え、助けている。下級生は上級生の行動を学び継承している。新年度には、新1年生のお世話や歓迎を2、3年生にお願いし、思いやりの気持ちや下級生のペースに配慮する気持ちが自然に育まれている。</p>				
<p>意見の対立やトラブルでは、双方の考え方の違いに気づき、自分の気持ちを自分で伝えることができるようにしている</p> <p>遊びの中で生じる意見の対立やけんか等については、間に職員が入り、丁寧に話を聞き取り仲介をしている。子どもにトラブルが起こった際には必ず職員に伝えてもらうルールが設けられている。職員は内容を把握したうえで、自身の意見を相手に伝えるよう促し、双方の意見の相違がなぜ起こったかを明らかにし、解決を図っている。この手順を繰り返すことで、子どもの自己解決能力を育てている。子ども一人ひとりの発達や成長の段階に応じて職員の介入度合いを調整し、自主性が発揮されるようにしている。</p>				
<p>子どもの間で、いじめ等の問題が生じないように配慮するとともに保護者や学校と連携して適切な対応を行っている。</p> <p>配慮が必要な子どもについて、保護者からの意向を確認したうえで、他の子どもたち全体に理解が得られるよう事情を伝えている。職員は子どもたちに、配慮が必要な事項を日常の関わりの中から適宜伝え、良好な関係性が築けるようにしている。また、いじめや仲間外れにならないように、そのような兆候が見られた際には、話し合いの場を設けて、未然の防止と解決に努めている。必要に応じて保護者と学校へ経緯と事後の経過を適宜報告している。</p>				

評価項目 IV-3- (5)		子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	人の話を聴く、自分の意思を伝える、相手の気持ちを受け止める等、人との関わりの中でコミュニケーションの力を培っていけるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブの決まりやルール、遊び等に子どもの意見を反映させ、考える力や自主的判断、表現する力が養われるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	一人ひとりの子どもの発達や子ども同士の関係を捉えながら適切に関わり、学年や成長に合わせた育成を行っている		
カテゴリーIV-3- (5) の講評				
<p>グループ活動を通して、人との関わりの中でコミュニケーション力を育てる場面を設定している</p> <p>班の活動やイベントの中で異年齢との関りの機会を設け、学年会議では同学年の意見を聞き、また発言する場を設けている。職員はこの中で、自身の意見を発すること、人の意見を聞き理解すること、意見の相違があった場合の解決の方法を見つけることを重視し、子どもの間に入って必要な支援をしている。時に職員は、意思の表出や言葉で伝えることが難しい子どもに寄り添い、意向を把握して代弁するなど、すべての子どもの意見が反映された取り組みとなるよう支援している。</p>				
<p>考える力や自主判断、表現する力が養われるように学童クラブの決まりやルール、遊び等について子どもの意見を反映させている</p> <p>子どもたちがクラブの企画や運営に参画できるように、学年会議の中で、ルールの設定や集団遊び等の内容を考えてもらい、全体を見通して考える力を育んでいる。長期休みの時に行っている朝の会では、子どもに1日の目標をきめて、発表してもらうことで、目的意識を持って自己実現することを意識付けしている。毎日の帰りの会で司会を行う日直は、日替わりで選出することで、個性を発揮したりみんなに伝える表現力を育み、子ども同士が刺激し合い工夫を重ねていくことが出来るようにしている。</p>				
<p>一人ひとりの子どもの発達や子ども同士の関係を捉えながら適切に関わり、学年や成長に合わせた育成を行っている</p> <p>学年が上がるごとに、子ども達の役割を増やすことで、他者との関わりを遊び以外でも築き、責任感や思いやりの心を育んでいる。日直などの役割は徐々に3年生から2年生に引継ぎを行うことで、自然に役割意識を持てるようにしている。また、新年度に移行する前の3学期に班での役割の引継ぎを行うなど、意識付けの機会も工夫して設けている。新入生を迎える時には、それまで自分が経験したことを活かし、相手のことを思った関わりを行うことで、子ども同士の関係性を良好に維持するサイクルとなるように、場面ごとに職員がバックアップをしている。</p>				

評価項目 IV-3-(6)		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	あそべえと円滑な協力ができるよう定期的な打ち合わせを行い、子どもの遊びをより豊かにできるように連携している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	地域の人たちと広く交流を図り、運営の内容を適切に説明するとともに、地域の協力を得て連携して子どもを見守ることができるよう取り組んでいる		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	新1年生については、子どもの発達と生活の連続性を保障するために、保育所・幼稚園等と子どもの状況について情報交換や情報共有を行っている		
カテゴリーIV-3-(6) の講評				
あそべえと定期的な打ち合わせを行い子どもの遊びを豊かにできるように連携している				
あそべえとの連携を通して、子どもが安全・安心に過ごせるように、協力体制を築いている。例えば、あそべえ・学童の垣根なく遊べる機会を設けるなど、子ども同士の交流を図りながら楽しく過ごせるよう、工夫している。地域子ども館全体で毎日ミーティングを行い、その日のそれぞれの連絡事項やスケジュール、活動内容について情報共有している。この際に双方の子どもの特記事項なども共有することで、双方の職員が担当業務以外の場面であっても対応できるようにしている。				
地域子ども館推進会議では情報交換を行い地域子ども館への理解を図っている				
館長、館職員、学校長、PTA、コミュニティーセンター代表、民生委員、青少年問題協議会、関前福祉の会、地域コーディネーター、むさしのエコフォーラム、施設開放委員会等で構成され、定期的に情報交換を行う推進会議では、地域子ども館全体の取り組みを報告し、協力・連携体制が敷けるようにしている。また、この中で子どもの安全な地域生活にむけて、子どもの登下校の際の様子について地域住民の声などの情報を収集し、学校と連携した対応をしている。地域団体のイベント開催時には告知協力や参加協力をを行い、子どもと一緒に参加するなど、地域社会の活性化に寄与している。				
新1年生について、保育所・幼稚園等と情報交換や情報共有をしている				
施設間連携プロジェクトを発足し、保育園とは卒園に向けて子どもの生活の変化に配慮した、連携した支援を展開している。例えば、保育士に地域子ども館を見学してもらい、小学生生活のイメージを理解した上で卒園を控えた子どもに情報提供ができるようにする取り組みや、支援が必要な子どもに連続性のある日常生活支援ができるよう情報共有と実践に向けた話し合いをしている。入会を予定している子どもが、新たな環境で楽しく過ごせるように、この連携を強め、継続していくことを目指している。				

サブカテゴリ-IV-4

固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援

評価項目 IV-4- (1) 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている 評点 (〇)	
評価 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	標準項目 ① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている
評価項目 IV-4- (2) 障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている 評点 (〇〇〇)	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 障害のある子どもや発達上に課題のある子どもが、学童クラブでの生活を通して共に成長できるように見通しをもって計画的な育成支援を行い、それぞれの特徴や状況に応じた遊びや生活の支援を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③ 障害のある子どもや気になる子ども育成については、定期的に専門相談員に相談し、家庭、学校、関係機関等と連携し、子どもにとってより良い育成ができるよう努めている
評価項目 IV-4- (3) 特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている 評点 (〇〇)	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 特別な支援が必要な状況を把握した場合や、特に配慮を必要とする子どもへの対応にあたって、関係機関と連携して適切な支援につなげるよう努めている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 虐待の疑いがある場合や、子どもや保護者に異変を感じた場合は、慎重かつ迅速に子ども家庭支援センター等に報告するとともに、連携した対応を図っている
カテゴリ-IV-4の講評	
障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている 障害のある子どもを受け入れる際には、事前に保育園または幼稚園で行動観察を行い、障害児審査会を経て、専門的な知識と学童での配慮が必要な点を把握している。入会説明会後に保護者と個別面談を実施し、子どもの特性や関わり方などの細かな留意点を聞き取っている。また、就学支援シートを活用して子どもの特性を把握している。日常的には、個別育成シート、調査票、面談記録、就学支援シートなどの留意点を職員間で共有し、担任ミーティングなどを通じて連携を図っている。定期的に行う障害児委員会でケースカンファレンスや事例検討を行い、より本人に寄り添った育成支援に努めている。	
共に成長できるように見通しをもって計画的な育成支援を行っている。	
子どもの障害特性や発達状況に応じた個別の育成計画を作成し、定期的なモニタリングと更新を行っている。育成計画は全職員に共有し、支援法やコミュニケーションの手法等に加えて、個別の目標を周知している。職員は障害特性に応じた支援を実施しながら、他の子どもとの関わりを促し、関係性の構築に努めている。市は年2～4回各館に障害児育成相談員の巡回を派遣している。その際に専門的な支援に関する相談やアドバイスを職員に行っている。内容に関しては学校とも共有し、互いに連携した支援を行っている。	
特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている 虐待を見た、聞いた、確認した等の場合において、その報告・連絡経路が定められており、迅速に対応する体制が整えられている。職員は、子どもとの日々の関わりから、常に状態把握に努めており、何か変化が見られた際には、本人との話し合いや、職員全体に報告をしている。保護者からの子育ての相談にはいつでも応じる姿勢であり、保護者には一人で悩まないように、平時から伝えている。また、必要に応じて子ども家庭支援センターとつなげて、多角的に解決を図る体制となっている。	

サブカテゴリ-IV-5

適切なおやつを提供

評価項目 IV-5-(1)		評点 (○)
放課後の時間帯におやつを適切に提供している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 補食となるおやつについては、放課後の時間帯に必要とされる栄養面や活力面を考慮し、内容や量、提供時間等を工夫し、子どもがおやつを楽しめるように配慮している	
評価項目 IV-5-(2)		評点 (○○○)
食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 食物アレルギーのある子どもについては、おやつを提供にあたり配慮すべきこと、緊急時の対応等について事前に保護者と丁寧に連絡を取り合い、安全に配慮しておやつを提供している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 窒息事故等がないよう、安全確認を徹底し、危機管理体制を整えている	
カテゴリ-IV-5の講評		
<p>おやつを選択は、味、ボリューム、季節感、そして子どもたちの嗜好を考慮している</p> <p>味や触感、季節感を感じられるものなど、おやつのパリエーションが豊富になるよう、職員間で検討を行い選別している。また、毎年行う市の保護者アンケートの中でも、おやつの内容やボリュームについて意見を募り、反映させている。イベント時には特別なおやつを提供するなど、子どもにとって楽しい時間となるよう工夫をしている。また、食品の安全確保に向けて、成分表示が十分でない食品の特定や賞味期限の管理方法等を今後の課題としてあげており、市内の学童全体で解決に向けて取り組んでいる。</p>		
<p>アレルギー児全員の現状と緊急時の対応方法は、月例の館ミーティングで職員全員で共有される</p> <p>入会時に保護者を行う面談の中で、アレルギーに関する聞き取りを行い、対応の検討を行っている。また、年度ごとに対応やアレルギー食品の種類に変化等が無いことを確認して、安全確保に取り組んでいる。提供時には、色分けされた専用の皿の準備や、職員が配膳を行う等、細心の注意を払っている。また、食べる場所においても飛沫などのコンタミネーションが起らないよう、席の配置にも配慮をしている。緊急時対応に向けて、全職員がエビペン使用や救命救急の研修を受講し、万が一の事態に備えている。</p>		
<p>食の事故防止に向けて、マニュアルを作成するとともに、職員全体が緊急対応可能な薬等の配置を工夫している</p> <p>子どもたちがおやつを静かに、適切な姿勢で食べるように声掛けと見回りを行い、誤嚥等の窒息事故防止に努めている。おやつを選別に関して、職員のダブルチェック体制を敷いており、成分を詳細に確認した上で購入している。おやつマニュアルを作成し、アレルギーに関する対応をまとめている他に、エビペンなどの緊急時に必要な薬を持参している子どものロッカーは、各部屋共通の場所に配置し、職員の誰もが迅速な対応を可能にしている。</p>		

サブカテゴリ IV-6

安全と衛生の確保

評価項目 IV-6- (1)		子どもの安全を確保する取組を行っている		評点 (〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	施設や遊具の点検整備を定期的に行い、安全性の確保に取り組んでいる		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブでの生活や行き帰りにおいて自らの安全を守るための行動について学習し習得できるよう援助し、安全指導を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子ども本人や他の子どもの危険と安全に対する判断力が養われるよう配慮している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④	個々の子どもの通所コースを点検し、危険箇所等を子ども、保護者と共有することにより、通所時の安全を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑤	学童クラブでの育成中の事故、病気、怪我や子ども同士のけんか等のトラブルが生じた場合は、関係する子どもの保護者へ連絡するとともに、状況に応じて保護者や関係機関と連携協力することにより、迅速な解決を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑥	事故、犯罪、災害等から子どもを守るため、子どもの遊びや生活の環境及び帰宅時の安全等について、地域の人々の理解と協力が得られるよう努め、連携協力して子どもの安全を確保している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑦	子どもの病気やケガ、事故等に備えて、日常的に地域の保健医療機関等と連携を図っている		
評価項目 IV-6- (2)		衛生管理に関する取組を適切に行っている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	手洗い・うがいの励行により、衛生的習慣を身に付けられるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	日々、施設や備品の清掃、おやつ等の衛生管理を行い、食中毒や感染症の発生の防止に努めている		
カテゴリ IV-6 の講評				
<p>自主検査チェック表を用いて毎日の安全確認を行い、不備があれば修繕依頼を出している</p> <p>特に事故につながりやすい遊具は定期的に点検し、スタッフが開放中に見回りを行っている。また、日々の清掃や消毒に加えて、定期的に重点的な消毒や清掃も行っている。安全に遊ぶためのルールや過ごし方は全体で確認し、季節の変わり目などには注意喚起も行っている。危険な遊びをしている子どもたちに対しては、その行為が安全かどうかを問いかけ、自ら考えて判断できるように支援している。これらの取り組みにより、子どもたちが安全に過ごせる環境を提供している。</p>				
<p>新年度には職員が地域を巡り、子どもたちの家や通学路、危険箇所を確認している</p> <p>地域巡りは、年度毎に子ども一人ひとりの通学路について、危険箇所がないかを、学校や地域と連携して確認する取り組みである。保護者には、子どもが単独で登校・帰宅することを念頭に、通学路と一緒に歩いてルートを確認をしてもらっている。けがの発生時は、軽微なものであればその場に対応し、経過を事故報告書に記し、保護者に報告している。大きな事故の際は職員の通院同行や、保護者・学校・子ども協会への連絡・連携体制が定められている。また、推進会議の中で市内の治安状況等を把握し、校内以外での遊び場等について子どもに注意喚起をしている。</p>				
<p>登所時やおやつ前後などに手洗いをし、換気やマスクの使用、適切な消毒を徹底している</p> <p>コロナ禍以前より、登所・おやつ・外遊びから帰ってきた時に手洗いが習慣化するように、声かけや掲示をしている。職員は感染症対策としての換気や消毒と室内の清掃を徹底し、流行期には必要に応じマスクの着用などを子どもに伝えている。おやつなど食品を扱う場面でも、食中毒等の発生防止に向けて、手順が定められており、衛生的な環境保持に努めている。また、個包装のおやつを推奨するなど、極力リスクを回避し、安全を確保している。</p>				

サブカテゴリⅣ-7

保護者・学校との連携

評価項目 Ⅳ-7- (1)		評点 (○○○)
保護者との協力関係を築いている		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもの様子を連絡帳、クラブだより、保護者会などを通じて保護者に伝えるとともに、必要な個人面談を行う等、保護者との信頼関係を築き、家族と連携して育成できるよう取り組んでいる
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもの日常の様子を把握し、友達関係や行動等、気になることが見られる場合には、その理由や子どもの気持ちをくみ取るとともに、保護者と連携を密にし、適切な対応を図っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	保護者の信頼を得て身近な相談相手となれるよう努め、必要に応じて他の相談機関につなげている
評価項目 Ⅳ-7- (2)		評点 (○○)
学校との連携		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	定期的に学校と情報交換を行うなど、連携を図っている
カテゴリⅣ-7の講評		
<p>家庭からの相談や気になる様子に対しては、電話や連絡帳、個人面談などで随時対応している</p> <p>新入会後の子どもたちの様子を連絡帳を通じて丁寧に伝え、保護者会やクラブだよりで育成の様子を共有している。また、家庭からの相談や気になる様子に対しては、電話や連絡帳、個人面談などで随時対応している。子どもの交友関係や行動に問題があれば、すぐに聞き取りを行い、必要に応じて保護者にも伝えている。お迎え時には明るく声掛けを行い、保護者が話しやすい雰囲気を作り、相談があった際には感謝の意を伝えるなど、丁寧な対応を心掛けている。さらに、保護者会の開催方法は多くの方に参加してもらうために、オンライン配信を行う等、情報共有や意見の聞き取る場を大切にしている。</p>		
<p>学校時間内に子どもたちが体調不良やケガ、トラブルを経験した場合、その情報は職員間で共有され、育成の際にも配慮されている</p> <p>子どもの詳細な様子を把握することに努め、学校との連携を通して情報共有をしている。授業中や休み時間などの学校の時間にあつたトラブルやケガ等については、学童クラブにも情報共有され、職員間で周知を行っている。学童クラブに登所するが、学校は遅刻や休みが多い子どもについては、学校側と状況報告を適宜行い、意見交換を重ねて、対応を検討している。不登校児童の学童クラブ利用に関しては、今後検討が望まれる課題となっている。</p>		
<p>副校長や学年担任との定例ミーティングを通じて、子どもや家庭の情報を共有し、学校の方針、状況、課題を把握している</p> <p>副校長とは定例ミーティングを通して、学校と地域子ども館との連携や、支援を必要とする子どもや配慮が必要な家庭について情報共有し、対応の統一などを行っている。青少年問題協議会とは地域の行事等について話し合い、地域での子どもの健全育成に向けて、その方針を共有している。開かれた学校づくり協議会では、学校の運営について様々な角度から協議を行う場であり、地域子ども館としての視点から話し合いに参加している。教職員等の異動により、それまでの体制や連携が刷新されることもあり、地域子ども館としての運営の在り方を継続して示していきたいとしている。</p>		

サブカテゴリⅣ-8

子どもの権利擁護

評価項目 Ⅳ-8- (1)		子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職場倫理を具体的に明文化している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	虐待等の子どもの心身に有害な影響を与える行為の禁止と早期発見について明確な規定を定めている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	職員による子どもの権利の侵害や虐待とみなされる行為の禁止について研修等を実施し、職員間で共有している		
カテゴリーⅣ-8の講評				
採用時に守秘義務に関する誓約書を提出し、「放課後児童支援員等の職業倫理」を全員で確認している				
放課後児童支援員等の職業倫理が定められており、その内容を職員全体に周知し、遵守を徹底している。館長は、市の定める子どもの権利条例や子どもプランの内容を通じて、職員の業務における姿勢を常に考え、実践するよう、ミーティング等の中で話している。市の情報セキュリティや個人情報保護等の条例に合わせ、入職時に守秘義務に関する誓約書を提出してもらい、職員一人ひとりが子どもや家族の情報を適切に扱うことを約諾している。				
子ども家庭支援センターとの定例打ち合わせで虐待の現状を理解し、職員は子どもの権利について研修を受けている				
子ども家庭支援センター主催の子どもの権利擁護についての研修に、定期的に職員が参加し、知識を深めている。また、定例打ち合わせでは虐待の事例検討等を行うことで、有事の対応や今後の体制について準備をしている。市内の学童の担当で組織される育成委員会では、虐待防止・権利擁護・安全管理等に関して、統一した取り組みとするため、定期的な話し合いを行っている。この中で今後不適切な育成支援の防止に向けて、チェックリストや振り返りを行うことを検討しており、職員全体の意識向上に向けて取り組んでいる。				
市の条例を深く理解し、子どもの不利益とならない日々の育成支援の提供に努めている。				
市では子どもの権利条例を制定し、ホームページ等でその内容や取り組みを広く伝えている。このパンフレットを職員全員に配布し、適宜内容についてミーティング等で共有している。今後は条例の内容をさらに深く理解し、地域子ども館の取り組みに活かしていきたいと考えている。この権利条例は子どもにもわかりやすく動画配信サイトやニュースレターでの周知もしており、今後は職員と子ども双方で理解を深めていきたいとしており、地域で子どもが安心して暮らせる社会づくりを目指している。				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	Ⅲ-2-(1)	提供する育成支援の標準的な実施方法が確立している
タイトル①	毎日の職員ミーティングにより、子ども一人ひとりの育成支援の手法を共有している	
内容①	毎日の職員全員でのミーティングを行って子どもの情報を共有し、市の育成方針に基づいて施設の方針や年間計画を策定している。その中で、一人ひとりの子どもを大切にする支援をしている。1年生とは5月頃に聞き取りを行い、また学年を問わず個別にニーズや困りごとを把握している。自由時間には一人ひとりが自分で遊び場所や遊びを選択することができるようにしている。また、さまざまな遊びを提供することで、子どもたちが自分の好みや興味を見つげられるよう配慮している。さらに、方針や年間計画は文章化され、半年ごとに職員で振り返りを行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	Ⅳ-3-(4)	子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している
タイトル②	子どもの主体的な問題解決能力を育む支援をしている	
内容②	遊びや生活の中で意見の対立やけんかなどが生じる場合、職員は丁寧に聞き取りを行い仲介することで子どもたちが自分の気持ちを整理し、相手に適切に伝えられるよう支援している。職員が橋渡しとなって互いの気持ちを伝えるサポートをすることもある。根気よく支援を繰り返すことで子どもたちは互いの考え方の違いに気づき、自分の気持ちを調整できるようになり、同じ場面に再び遭遇した際には、子どもたち自身が対応できるような支援をしている。相手を理解する姿勢や許容する気持ち、忍耐力を養い、子どもたちの主体的な問題解決能力を支援している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	Ⅳ-8-(1)	子どもの権利擁護に関する取り組みが徹底されている
タイトル③	条例や職員倫理に基づいた、育成支援の姿勢を確立している	
内容③	子どもの権利擁護の意識向上に向けて、市の子ども権利条例の内容の熟知、子ども家庭支援センターの研修の受講、館内研修を行うなど、積極的に取り組んでいる。この取り組みにより、職員全体で子どもの自主性や問題解決能力を育む育成支援を行う姿勢が確立されている。さらに、これまでの正規職員のための研修受講状況に改善を図り、臨時職員にも学ぶ機会を設け、市の条例や職員倫理に基づいた適切なサービス提供を継続していくことを目指している。	

特に良いと思う点		
1	タイトル	子どもの主体性を育み、その成果を発揮できる育成支援がされている
	内容	子どもの主体性を育むため、自由時間には、あそべえや他の支援単位、図書室、校庭などから自ら活動の場所を選択している。子どもたちは、帰りの会や学年会議等で自分の意見を述べ、他者の意見を聞き、異なる意見との折り合いをつける方法を学んでいる。言葉のコミュニケーションが苦手な子どもたちには、支援員が双方の気持ちを理解し合うための橋渡しを行っている。子どもが自分で考え、判断する権利を大事にし、主体性を生かす育成がされている。
2	タイトル	職員が子どもの情報共有をするシステムづくり
	内容	毎日の全体ミーティングと育成前のクラスミーティングで、日々の連絡事項を中心にポイントを押さえた打ち合わせを行っており、共有が必要な事項や横断的に統一が必要な事項を確認できる仕組みを整備し、職員全体で子どもたちを把握する視点を持って見守りや育成が行えるよう心がけている。子どもたちの様子は在籍クラブの担当職員だけでなく、育成日誌及び特記事項などを使って担当以外の職員が読んでもわかるように必要な情報を記録し、さらに毎日ミーティングを通して子どもの様子を振り返り、全職員が共通認識のもとで支援に関与できるシステムを整えている
3	タイトル	職員同士の連携が密であり、お互いの考え方を尊重し合いながら、業務に取り組んでいる
	内容	職員同士の連携を密にし、お互いの考え方を尊重し合いながら、業務に取り組んでいる。職員間の信頼関係もしっかりと構築されている。運営において非常に重要な要素であり、良好な関係性は子どもたちの育成にも良い影響を与えている。職員全員が、日々の情報共有を行っている。全員が同じ情報を持つことで、運営が円滑に進行している
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	保護者への情報提供については、誤解が生じないように、わかりやすく工夫した方法を検討してみてもどうか
	内容	利用者調査の結果、保護者の満足度が非常に高い。保護者は、子どもたちが安心して通えていることや、異年齢の集団の中で心身の成長が支援されていることを評価しており、感謝の気持ちも述べている。しかしながら、おやつや検温、入会基準、感染対策等については、いくつかの意見が寄せられている。当クラブの意図や考え方が十分に保護者へ伝わっていない面があると思われる。今後は、保護者が納得しやすい形での情報提供方法を工夫することで、意見の相違などが生じる可能性も減少すると思われる。
2	タイトル	異動に伴う、各館の業務内容を説明する際の、手順の仕組み作りに向けた取り組みに期待したい
	内容	市内の地域子ども館全体で統一したサービス提供を目指し、館長会議や障害児委員会、育成委員会などの定期的な会議を開催している。同時に、各館の地域性や職員の特性を活かし、地域との関係性の構築や独自のサービス提供も行っている。職員の異動に伴う業務の流れ等の説明は、新たな職場でのOJTによって行われているが、さらなる効率化を目指し、手順の設定などにより各館の特徴をより全体的に把握できる仕組みづくりに期待したい。
3	タイトル	職員が長期的なビジョンを持てるような取り組みに期待したい
	内容	単年度の年間計画は、職員全体で策定する体制や、中間で見直す機会を設け、職員に目標を意識してもらうなど、達成に向けた仕組みが整えられている。この年間計画は市の子どもプランや子ども協会の中期計画をもとに作成されており、これらの資料は全職員に配布している。また、その内容の理解に向けては、今後さらに取り組みを深めていきたいとしている。これらの取り組みが実施されることで、職員一人ひとりが長期的なビジョンを持ち、計画等の策定や、積極的に運営に関わることに期待したい。